Q0405M

非金属チェーン　バイアスロン　スーパークイック55・スーパークイック55RV

取扱説明書

**装着方法の詳細は、別冊に記載しています。
必ず本書と併せてお読みください。**

弊社ホームページ（http://www.carmate.co.jp/biathlon/）にて装着方法をビデオ配信しています。

はじめに

　このたびは、カーメイト非金属チェーン「バイアスロン　スーパークイック５５」「バイアスロン　スーパークイック５５ＲＶ」（以下「バイアスロン」といいます）をご購入いただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書は、「バイアスロン」を正しく安全にご使用いただくために、「バイアスロン」の特徴と取扱方法を説明したものです。

　すでに類似の製品をご使用になられた経験をお持ちの方も含めて、「バイアスロン」をご使用になる前に必ずお読みください。お読みになった後は、「バイアスロン」とともに保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことが起きたとき読み返してください。本品をゆずられる場合は、次に使用される方のために本書もあわせてお渡しください。また、本書をお読みになられた上でご不明な点がございましたら、本書記載のサービスセンターにお問い合わせください。

目次

CARMATE® 株式会社カーメイト

重要安全情報

「バイアスロン」の使用にあたっては、本書の第１章「安全」の章に特に重要な情報が含まれています。また、以下の説明をご理解いただいた上で本書による指示／警告を守って、より一層の安全運転を行う必要があります。

「バイアスロン」は、自動車のタイヤに装着して使用しますが、使い方を誤ると自動車をコントロールすることができなくなって、死傷事故や物損事故を引き起こすおそれがあります。また、状況によってはタイヤとバイアスロンとが空転して同様の事態を招いたり、車体を傷つけることもあります。

当社にとって起こりうるすべての事態を想定することは困難ですが、知り得る限りの危険性について本書に記載しました。

危険性に関する警告は、次の２段階に区分して表示してあります。

⚠警告　警告事項を守らないと、死亡や重傷に至る重大な事故を起こすおそれがあります。

⚠注意　注意事項を守らないと、ケガを負ったり、製品・車両が損傷するおそれがあります。

第１章　安全

1.安全上の注意事項

「バイアスロン」の取扱いにあたっては、この取扱説明書をよく読んで指示に従ってください。
「バイアスロン」には装着してはいけない車種およびタイヤがあります。車の取扱説明書もよくお読みのうえでご使用ください。
「バイアスロン」の取扱いは、装着・取外し・保管に大別できます。
初めてご使用になるときは事前にテスト装着を行って、100〜200m程度のならし走行を行ってください。

2.取扱上の注意事項

1　装着に関する安全情報

⚠警告　「バイアスロン」は両輪に装着してご使用ください。

●片輪だけに装着して走行すると走行安定性が低下し自動車がコントロールを失うおそれがあります。

⚠警告　切れたり、金属部分の変形した「バイアスロン」は使用しないでください。

●切れたり、金属部分が変形したままのものを使用するとバイアスロンが外れるおそれがあります。

⚠警告　ロックやフックが全て確実に装着してあることを確認してください。

●装着が不完全なままで走行するとバイアスロンが切れたり外れたりするおそれがあります。

⚠警告　取付け・取外しは安全な場所で行ってください。

●特に高速道路の路肩等での取付け・取外しは死傷事故を引き起こすおそれがあり大変危険です。
チェーン脱着所など安全な場所で取付け・取外しを行ってください。

⚠注意　駐車時は必ず輪止め等で車が動かないように処置してください。

●ＦＦ車（前輪駆動車）の多くは、ブレーキのかかる後輪にバイアスロンが付いていないためサイドブレーキによる車の静止ができません。ギアを入れたり（ＡＴ車はＰレンジに）輪止めをしてください。

⚠注意　装着作業中に同乗者が乗り降りすると、タイヤとタイヤハウスの間に手をはさむことがあるので注意してください。

2 装着時の走行に関する安全情報

⚠警告 「バイアスロン」を装着しての走行は、通常の走行に比較し走行安定性が低下します。雪路・非雪路にかかわらず「安全にコントロールできる速度」で走行してください。

●安全にコントロールできる速度とは・・・

乾燥路・圧雪路・凍結路・融雪路等その様々な路面状況で、あなた自身が安全に走行できる範囲の速度のことです。
「バイアスロン」は「平坦路を時速５０ｋｍ／ｈで走行した場合、雪路・非雪路を問わず約１，０００ｋｍの耐久性を有しております。」が、ここでの時速５０ｋｍ／ｈは耐久性を示す指標であり、「安全にコントロールできる速度」の意味ではありません。
あくまで路面の状況に合わせ、「安全にコントロールできる速度」で走行してください。

50

●時速５０ｋｍ／ｈ以上で走行すると、製品の耐久性が急激に低下します。

●時速５０ｋｍ／ｈ以上で走行すると、直進性が悪くなりフラツキが発生し最悪コントロール不能になる場合があります。

●時速５０ｋｍ／ｈ以上で走行すると、製品が膨らみタイヤハウス内やサスペンション等とも干渉し車両も破損するおそれがあります。

●特に高速道路を走行中は、周囲の車に流されて「知らないうちのスピードオーバー」傾向になりますので、ご注意ください。

⚠警告 スリップ事故は、雪路・非雪路にかかわらず突然に発生します。

●事故につながる条件全てを本書にて説明することは出来ません。雪路・非雪路にかかわらず余裕を持ち「安全にコントロールできる速度」で走行してください。また、「知らないうちのスピードオーバー」を防ぐためスピードは常に確認してください。

⚠警告 ＦＦ車（前輪駆動車）とＦＲ車（後輪駆動車）で走行の特性が大きく変わります。

●ＦＦ車の場合：バイアスロンを装着していない後輪のグリップ力が失われるため直進中でも後輪が横滑りする事があります。

●ＦＲ車の場合：バイアスロンを装着していない前輪のグリップ力が失われるためカーブを曲がれなくなったり、直進安定性が低下します。

●バイアスロンを装着した場合は十分速度を落として運転してください。

⚠警告 「急発進」・「急加速」・「急ブレーキ」・「急ハンドル」など「急」のつく運転操作は絶対に避けてください。

●トレッドやロック部、フックなどに無理な力がかかり寿命の低下や破損の原因となります。

●雪のない路面での「急」操作は瞬間的にトレッドを摩耗させ、使用不能の原因となります。

⚠警告 連続空転（ホイールスピン）は絶対に避けてください。

●特にエンジンの馬力が大きい車などは、少しだけアクセルを踏んだつもりでも急に大きな駆動力がかかり、空転してしまうためバイアスロンに大きな負担がかかることがあります。

●車が進まないときは要注意！！　いったんアクセルを戻してＭＴ車はシフトレバーを２速に入れ、ＡＴ車はスノーモードを使用して可能なかぎりゆっくりと発進させましょう。

⚠警告 ご使用中はときどき装着状態を確認し、ロックやフックが全て確実に装着してあることを確認してください。

●装着が不完全になるとバイアスロンが切れたり外れたりするおそれがあります。

⚠警告 雪がなくなったら、速やかに「バイアスロン」を取外してください。

●雪のない路面の走行でも通常より走行安定性は低下します。さらに粉塵公害発生のおそれがあります。

⚠注意 「バイアスロン」を装着している時は、深雪を走行しないでください。

●滑り止めを付けていても一定以上の深雪は走れません。無理に深雪に入ると脱出不可能となることがあります。

●深雪中の無理な走行は空転を招き寿命の低下につながります。またタイヤからの外れが起こることがあります。

⚠注意 「バイアスロン」を装着している時は、非舗装路（オフロード）を走行しないでください。

●バイアスロンが切れたり、外れやすくなります。

■次ページの　3.安全な走行方法もお読みください。

3.安全な走行方法

●スリップとスピンに注意

「バイアスロン」は車両の駆動輪に装着し、通常のタイヤでは走行不可能な雪路や凍結路を走行可能にするための補助器具です。一方、「バイアスロン」を装着していない方のタイヤは雪路や凍結路の上でのグリップ力が低下するため、前後のグリップ力のバランスが崩れてしまいます。このため、路面の状況に応じた運転をしないと通常乾燥路を「バイアスロン」装着なしで走行した時には考えられないスリップやスピンを起こすことがあります。

●車の挙動が駆動方式の違いにより、大きく異なります。駆動方式による特性を理解の上、運転してください。
●スノーモードに切替えることができる場合は、スノーモード状態で走行してください。
スノーモードにつきましては、車備え付けの取扱説明書をご覧ください。

●上り坂ではゆっくり発進

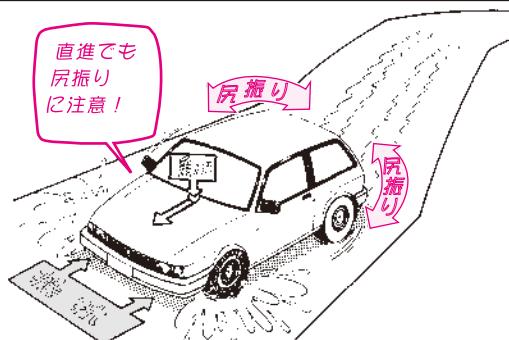
上り坂では駆動力をかけ過ぎると「バイアスロン」が空転してしまいます。アクセルをできるだけ軽く踏み、車が動きはじめたらそのままの速度でゆっくりと発進してください。

●アイスバーン上では十分徐行する

「バイアスロン」は滑り止めのトレッドと超硬マカロニスパイクピンによるグリップにより雪路を走行可能にしています。アイスバーンの上ではこのグリップ力が大幅に低下しスリップする危険性があります。アイスバーンの上を走行するときは十分スピードを落とし、ハンドルをしっかり握り走行してください。

●半融雪（シャーベット）上では低速で走行する

シャーベットの上ではシャーベットはすぐ崩れるためグリップ力が弱くなり滑りやすくなります。シャーベットの上を走行するときは、アイスバーン同様十分スピードを落とし、ハンドルをしっかり握りできるだけ低速で走行してください。

FF車（前輪駆動車）

直進　突然の尻振りにご注意！

 ＦＦ車は滑り止めを装着していない後輪が滑りやすくなります。直進中でも雪質や路面の凹凸やわだちなどによってバランスを崩し、スピンすることがあります。

 ＦＦ車は下り坂や減速時は車の重心が前方へ移動しさらに、後輪が滑りやすくなります。下り坂や停止する場合はその手前で十分に減速しておきましょう。

カーブ　カーブの手前で十分減速！

 ＦＦ車は前輪に抵抗がかかった状態でコーナーリングすると直進時と同様、後輪が滑りやすく危険です。カーブの途中でブレーキを踏んだり、急にアクセルを戻したりするとスピンすることがあります。

 カーブに入る手前で十分にスピードを落とし、アクセルを一定に保ちながら、ほぼ一定のスピードか、わずかに加速するぐらいの感じで曲がるのが安全です。

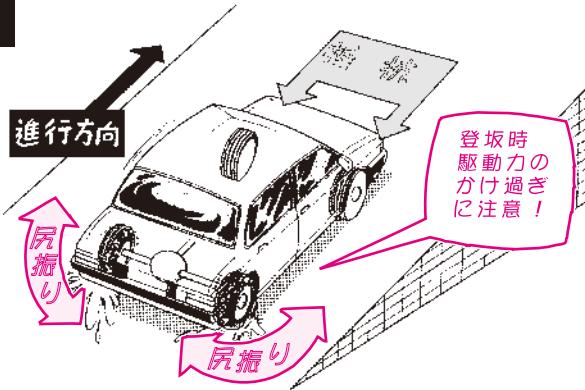
ブレーキ　ポンピングブレーキを使おう！

 ＦＦ車は直進状態でもブレーキを軽く踏む（半踏み）操作をすると、後輪がロックし、急にグリップが失われてスピンすることがあります。

 ブレーキは「強く踏む↔すぐ離す」を短いピッチで何度も繰り返すポンピングブレーキが効果的です。

もし滑ってしまったら……

●後輪がもし滑った場合は、後輪が滑った方向へすばやくハンドルを切り込みます。（カウンターステア）この時あわてて急ブレーキをかけたりするとかえってスピンする可能性があります。
ＦＦ車は駆動力のかかった状態が安定していますので、いくぶんアクセルを踏み込みながら立て直した方がよいのです。

FR車（後輪駆動車）

直進　加速時、登坂時の尻振りにご注意！

注　ＦＲ車は駆動力をかけすぎると後輪が左右に振れる現象が起こります。特に登坂時やハイパワーな車ほどこの現象は大きい傾向があり、立て直しが遅れるとスピン状態になることがあります。

テク　急なアクセル操作や無用なギヤチェンジを避け、できるだけスムーズな加速・登坂をすることが大切です。

カーブ　前輪のグリップにご注意！

注　ＦＲ車は滑り止めを装着していない前輪が滑りやすくなります。特にカーブにオーバースピードで進入するとハンドルを切っても、車はほとんど曲がらずにそのまま突っ込む危険があります。

テク　カーブに入る前に十分スピードを落とし、心もちエンジンブレーキをかけながら曲がるのが、安全な方法です。カーブの途中でブレーキを踏むと前輪をロックさせ、かえって曲がれなくなります。

ブレーキ　ポンピングブレーキとエンジンブレーキを使おう！

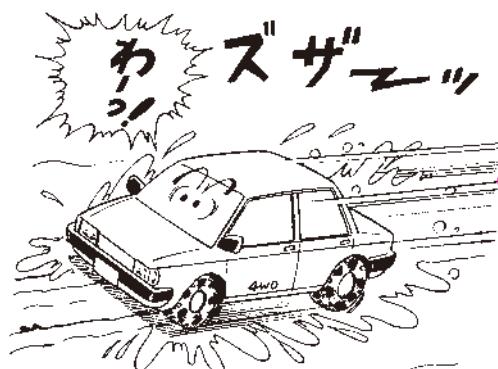
注　ＦＲ車はブレーキを軽く踏む（半踏み）操作をすると、前輪だけがロックし、操縦不能になることがあります。

テク　ブレーキは「強く踏む↔すぐ離す」を短いピッチで何度も繰り返すポンピングブレーキを使い、前輪が回転した状態でハンドルを操作してください。また、エンジンブレーキで後輪に制動力をかけて減速することが最も効果的です。

もし滑ってしまったら……

- ＦＲ車で登坂中や加速時に後輪が左右に振れたらまずアクセルを戻しましょう。大きく振れた場合は、アクセルを戻すと共にすばやく振れた方向へハンドルを切り込み（カウンターステア）、姿勢を立て直してください。
- 前輪が滑って操縦不能になった場合は、ブレーキを踏み続けるとコントロールはできません。ブレーキを離すとコントロールできる場合があります。

4WD車（4輪駆動車）

飛ばし過ぎにご注意！

- 4輪駆動車は雪道に強いと言われていますが、その性能を過信することは危険です。FF車やFR車に比べ滑り出すまでの限界が高いことは事実ですが、その限界を越えて操縦不能になる際のスピードはFF車やFR車よりはるかに高いので、一般のドライバーの方には立て直しが全くできずに事故につながることを覚えておかなければなりません。

タイヤチェーン装着車輪は？

- 車種により異なる場合がありますので、車備え付けの取扱説明書に従ってください。
- 4輪駆動と2輪駆動の切替え式の車では4輪駆動状態で走行する事をおすすめします。
- 4輪駆動状態で前後共に装着可能な場合には、前輪に装着する事をおすすめします。

第 2 章　バイアスロンの概要

1.特徴と機能

「バイアスロン」は、自動車のタイヤに装着することで、雪路の走行を可能にする非金属タイヤチェーンです。
「バイアスロン」は、(財)日本自動車交通安全用品協会規格JASA432が規定する性能基準を満たす、次のような性能を持っています。

制動性：4輪普通タイヤ車の駆動輪にのみ装着した場合、4輪とも冬期用標準タイヤの場合との対比で圧雪路の場合105%以上、氷盤路の場合120%以上の制動性を持っています。
登坂性：圧雪路の勾配平均が10%及び氷盤路の勾配平均が8%を途中発進したとき、滑らかに登坂できる登坂性を持っています。
耐久性：600kmの融雪、圧雪路の走行テストを行っても装置の破損、スパイクの脱落および各部に異常が生じない耐久性を持っています。
材　質：ポリウレタンエラストマー、超硬合金マカロニタイプスパイクを採用しています。

JASA 432
規　格　品
認定マーク

Super Quick55
Super Quick55RV

JASA,08ー008C

(認定番号票)

JASA432規格品
認定番号「JASA,08ー008C」
(財)日本自動車交通安全用品協会認定

バイアスロンの認定番号は
製品にも表示されています

2.適合車種

1　適合可能車種と適合条件

●1BOXで4輪共普通タイヤの場合、2輪のみの装着で走行すると、車の走行安定性が低下します。必ず4輪に装着してご使用ください。

Super Quick55 Super Quick55 RV 装着輪	2輪装着	4輪装着	装着不可
車種区分	乗用車 軽自動車 ボンネット ワゴン バン ミニバン 軽 1BOX ミニバン 1BOX スタッドレスタイヤ ミニバンと1BOXの区分は下記表でご確認ください。	1BOX 普通タイヤ	トラック SuperQuick55RVは装着可能です。

★主なミニバン／1BOX区分表

車種／メーカー	ミニバン（運転席が前輪より後方にあるタイプ）	1BOX（運転席が前輪の上にあるタイプ）
トヨタ	タウンエースノア・タウンエース(96.10～)・ライトエースノア・グランドハイエース・レジアス・アルファード エスティマ・イプサム・ガイア・ツーリングハイエース・ライトエース(96.10～)・オーパ・ノア・ヴォクシー	タウンエース（～96.10）・ライトエース（～96.10） ハイエース・マスターエース・レジアスエースバン
ニッサン	キャラバンエルグランド・ラルゴ・ホーミーエルグランド・セレナ・エルグランド	キャラバン・バネット・バネットラルゴ・ホーミー
ミツビシ	デリカスペースギア・デリカカーゴ（～99.11）・シャリオグランディス	デリカスターワゴン・デリカカーゴ（99.11～）・デリカ
ホンダ	オデッセイ・ストリーム・ステップワゴン・ラグレイト・エリシオン	
マツダ	ボンゴフレンディー	ボンゴ・ボンゴブローニィ
イスズ	フィリー	ファーゴ・コモ
ダイハツ	デルタ（96.11～）	デルタワイド（～96.11）・デルタバン（～96.11）
スバル		ドミンゴ

3.タイヤチェーンの装着輪

●「バイアスロン」は、自動車の駆動輪に装着して使用します。
●装着する自動車が次のどの区分に該当するか、車に備え付けの取扱説明書であらかじめ確認しておく必要があります。

ＦＦ車（前輪駆動車）	ＦＲ車（後輪駆動車）	4WD車（4輪駆動車）
前輪に装着します。	後輪に装着します。	車種により異なる場合があります。 車備え付けの取扱説明書に従ってください。

●4輪駆動車の4WD走行で前後共装着可能な場合には、前輪に装着する事をおすすめします。

4.適合タイヤと取付間隔

1 適合タイヤ

装着してもよいタイヤ

●オンロード専用タイヤ（普通タイヤ）

※４５・５０などの超偏平タイヤは「バイアスロン」の被りがタイヤ幅に対して浅くなるため連続空転などによる装置のズレが大きくなります。あくまで緊急用として高速道路、市街地などの雪路で使用してください。
※「バイアスロン」の被りが深く、かつタイヤ・ホイルの形状により「バイアスロン」とホイルが接触する状況では、ホイルに傷がつくおそれがありますので、ご了承のうえ必要最小限のご使用にとどめることをお勧めします。

●オンロード・オフロード兼用タイヤ

※タイヤにより異なりますが、タイヤサイドのホワイトレターは走行により削れるおそれがあります。定期的に確認し摩耗が見られる場合には、スピードを落とし低速で走行してください。

●スタッドレスタイヤ（ただし、一部サイズは普通タイヤと適合品番が変わるものがあります。店頭の適合表またはカタログをご確認ください）

※特にスタッドレスタイヤはゴム質が軟らかく、チェーンを装着して走行すると側面が削れるという性質を持っています。スタッドレスタイヤに装着するときは、そのことをご了承のうえ必要最小限のご使用にとどめることをお勧めします。

第２章

装着してはいけないタイヤ

●オフロード専用タイヤ（「バイアスロン」のトレッドがタイヤのブロックのすき間に落ち込むようなタイヤ）
●オフロード専用の冬用タイヤ
●スパイクタイヤ

〈主な不適合タイヤ〉

'05年4月現在

メーカー	タイヤ銘柄	メーカー	タイヤ銘柄
ブリヂストン	DUELER M/T 672	トーヨー	TRANPATH M/T
ブリヂストン	DUELER M/T 673	トーヨー	NOMADIC MUD STAGE
ブリヂストン	DESERT DUELER 744	BF-Goodrich	MUD-TERRAIN T/A
ヨコハマ	MUD DIGGER Y812	BF-Goodrich	BAJA T/A
ヨコハマ	MUD DIGGERⅡ Y813	BF-Goodrich	MUD KING XT
GEOLANDAR	GEOLANDAR M/T	BF-Goodrich	MUD -TERRAIN T/A KM
GEOLANDAR	GEOLANDAR M/T+	GOOD YEAR	WRANGLER MT
ダンロップ	GRAND TREK MT1	GOOD YEAR	WRANGLER MT/R
ダンロップ	GRAND TREK MT2 WIDE	GENERAL	GRABBER MT
ダンロップ	GRAND TREK MT2 NARROW	Firestone	FIREHAWK RMT
オーツ	LANDAIR TA	Firestone	FIREHAWK ATX
ミシュラン	4×4 O/R XZL		

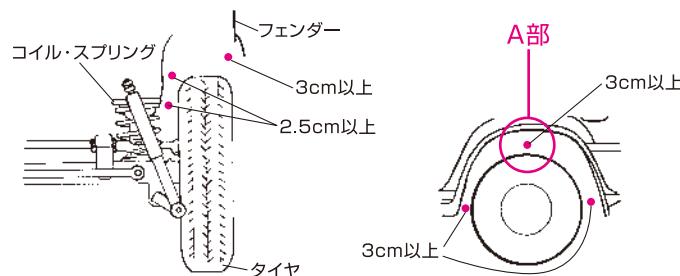
2 空気圧

●タイヤの空気圧が自動車メーカーの指定値より低い場合、装着しにくくなることがありますので空気圧を確認してください。

3 タイヤと車体との間隔（必ず確認してください）

タイヤ、ホイールをその車の純正品以外のものと交換している車、あるいは純正オプションタイヤ装着車では、ホイールのオフセットにより「バイアスロン」を取付けられないことがあります。

確認事項

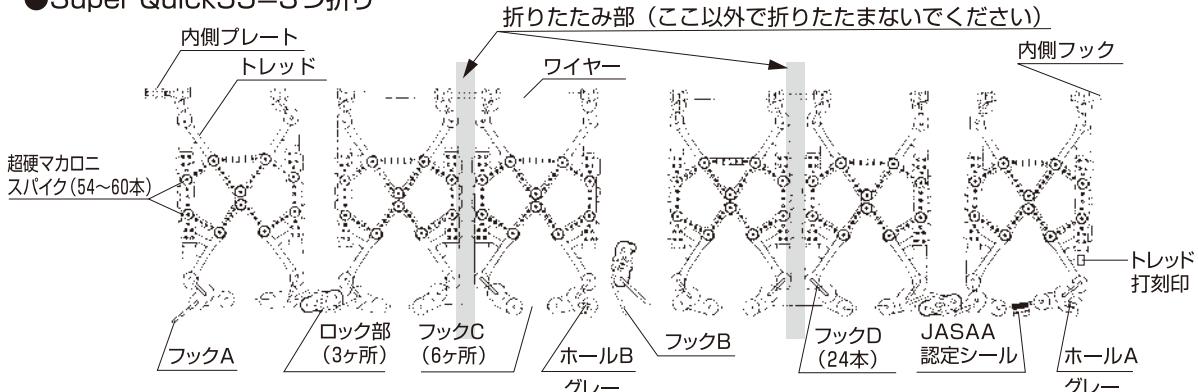
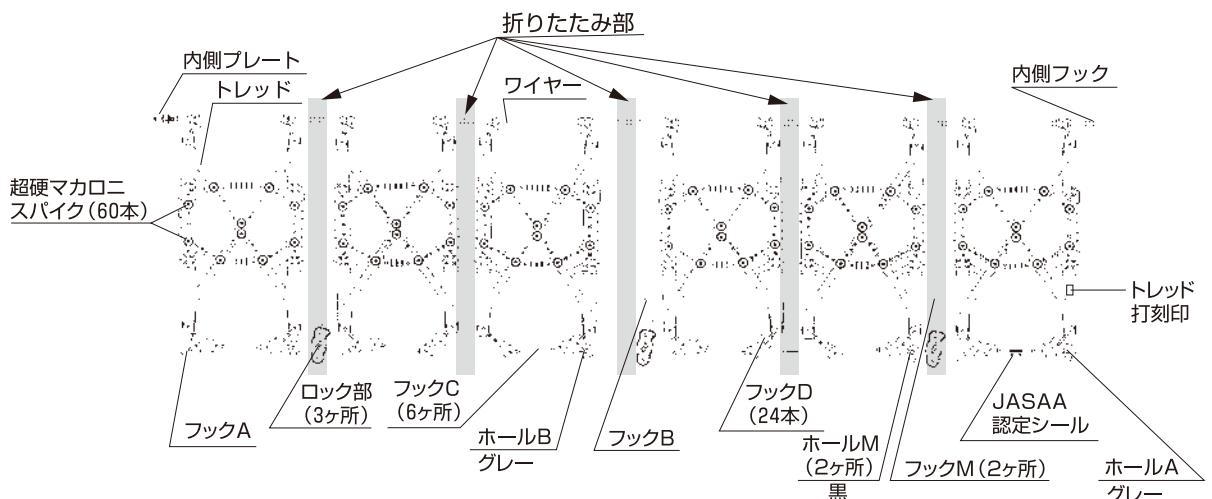
●「バイアスロン」を装着していない状態で、タイヤ周囲にフェンダーまわりで３ｃｍ以上、タイヤ裏側で２.５ｃｍ以上のすき間があることを確認のうえ、ご使用ください。
●前輪に取付けるときには、車のハンドルを左右いっぱいに切った状態でも確認が必要です。
●ＡＢＳ装着車の場合は、コードなどが干渉しないことを確認してください。
●特にローダウン仕様車の場合は、ノーマル車に比べ、すき間が狭くなっている場合が多いのでご注意ください。
●リーフスプリング（板バネ使用）車の場合も同じです。

※タイヤの上側とフェンダーのすき間（上図のA部）が狭く、内側フックが接続しにくい車（特にローダウン車や輸入車）の場合は、ジャッキアップする事で装着が可能です。

5.本体と付属品

●取扱説明書（本書）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1冊
●耐水性　取付説明書・取外説明書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1冊
　装着方法・取外方法を記載しています。耐水性なので濡れた路面で使用しても破れません。
●バイアスロン本体（左右ペア）本体装着時に左右の区別はありません・・・・・・・・・・・・1組
●ハンドル・・2本
　装着、取外しの時に使用します。２本入りのため、２人で装着・取外しの時に便利です。
　（ハンドルを紛失した時は購入店でご注文、もしくは弊社サービスセンターにてお買い求めいただけます）
●軍手付き腕カバー（左右ペア）装着、取外しの時に腕にはめて使用します。・・・・・・・・・1組
●愛用者カード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1枚
●認定のしおり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1冊

6.本体各部の名称

〈表側（スパイク面）から見た図、タイヤ1輪分〉
★スパイク面が路面に接する側になります。

●Super Quick55=3つ折り

●Super Quick55RV=6つ折り

※トレッドの打刻印と適合品番の表記が一部違う品番があります。
　右記の互換表にてご確認ください。
　(□部はA、B等のアルファベットになります)
※JASAA認定シールは、はがさないでください。
　取外しのときの位置の目安として使います。
　JASAA認定シールの裏側が内側接続部です。

〈Super Quick55〉

トレッド打刻印	適合品番	トレッド打刻印	適合品番
9□	QG9	20□	QG20
10□	QG10	21□	QG21
10□	QG11	23□	QG23
13□	QG12	25□	QG25
13□	QG13	22□	QG26
14□	QG14	24□	QG27
16□	QG16		

〈Super Quick55 RV〉

トレッド打刻印	適合品番
02□	QG51
02□	QG52
03□	QG53
03□	QG54
04□	QG55
04□	QG56
05□	QG57

第 3 章　装着方法・取外方法

「バイアスロン」を実際に装着・取外しする際は、別冊の取付・取外説明書をご覧ください。

1.装着（取外し）の前に

ここでは、装着・取外作業の過程で繰り返し行う作業についてその方法を説明します。

1 装着（取外し）場所の選択

●積雪・凍結路面を避け、平坦で他の交通から離れた場所に自動車を停めます。
特にタイヤの周囲に積雪があると、装着・取外しもやりにくくなります。
●パーキングブレーキをかけ、ＭＴ車はシフトレバーをニュートラルに、ＡＴ車はセレクトレバーを「Ｐ」に入れ、エンジンを停止します。

2 装着（取外し）用具の準備

●ハンドル（付属品）を用意します。けがを防ぎ衣類を汚さないために、腕カバー（付属品）と軍手を着用します。
●ホイールカバーが付いている場合は、レンチ又はマイナスドライバー等の工具を用意して取外します。
ホイールカバーは、傷が付くので必ず外してください。

3 ロック部の締付けと解除

ロック部の締付け方法

①ハンドル（付属品）の先端部のピンをロック部の中央の穴に差し込みます。（完全に奥まで差し込んでください）

②ハンドルを両手で持ち、穴からピンが抜けない様に、押しつけながら右回しに半回転させます。

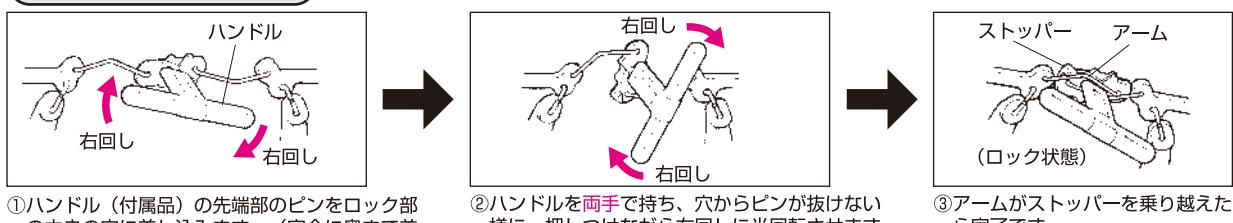
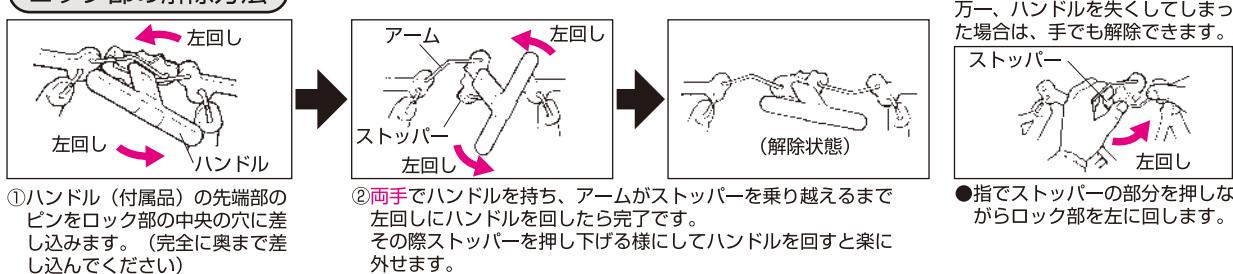
③アームがストッパーを乗り越えたら完了です。

ロック部の解除方法

①ハンドル（付属品）の先端部のピンをロック部の中央の穴に差し込みます。（完全に奥まで差し込んでください）

②両手でハンドルを持ち、アームがストッパーを乗り越えるまで左回しにハンドルを回したら完了です。
その際ストッパーを押し下げる様にしてハンドルを回すと楽に外せます。

万一、ハンドルを失くしてしまった場合は、手でも解除できます。

●指でストッパーの部分を押しながらロック部を左に回します。

4 内側フックの接続と外し方

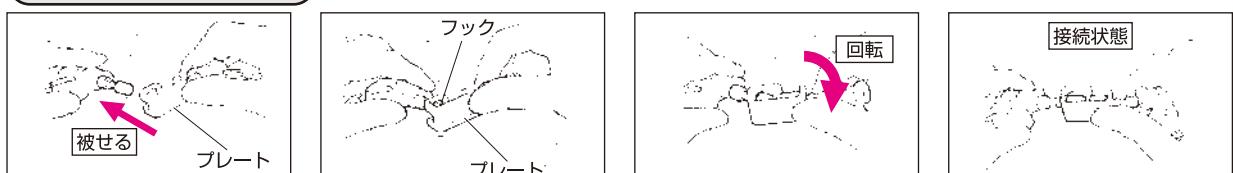
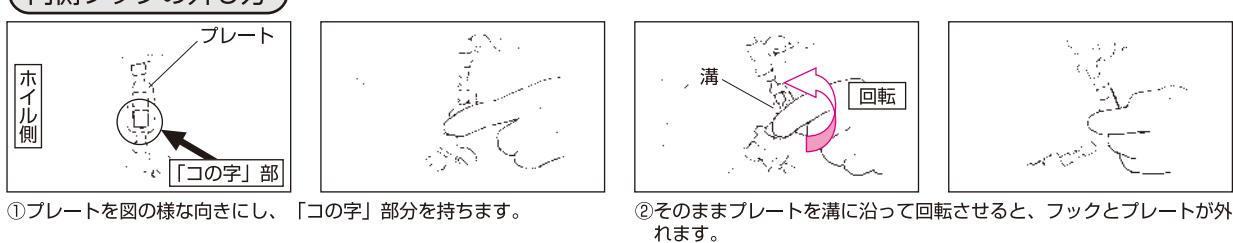
内側フックの接続方法

①フックにプレートの穴部を被せる様に差し込みます。
プレートは挿入しやすい向きに回転させてください。

②そのままプレートの溝に沿って回転させます。

内側フックの外し方

①プレートを図の様な向きにし、「コの字」部分を持ちます。

②そのままプレートを溝に沿って回転させると、フックとプレートが外れます。

1.こんなときは…

以下の項目をチェックしても、問題が解決しない場合は弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

	こんなときは	考えられる原因	ご確認ください	参照ページ
取付	バイアスロンが取付けられない。（共通）	●適合品番が間違っている。	●ケースの品番シールを参照し、適合タイヤサイズを確認してください。同サイズのタイヤでも普通タイヤとスタッドレスタイヤで適合品番が異なる場合があります。	
		●ホイールが純正のリム幅と異なっている。	●ホイールが純正品であるか確認してください。適合タイヤサイズは純正装着のタイヤホイールを基準にしているためリム幅が異なっていると取付けられないことがあります。	
		●タイヤの空気圧が正常値でない。	●タイヤの空気圧が、自動車メーカーの指定の空気圧であるか確認してください。	P6・[2]
		●自動車が傾いて停まっている。	●自動車が傾いて停まっていると、沈み込んだ側の取付けができない場合があります。 自動車を平坦な場所に移動してください。	
		●タイヤと車体との間隔が狭い。	●タイヤ周囲にフェンダーまわりで３ｃｍ以上、タイヤ裏側で２.５cm以上のすき間があることを確認してください。	P6・[3]
		●タイヤ内側に回し込むときに、フックBとホールBが接続されている。	●フックＢとホールＢを外して、タイヤ内側に回し込んでください。	取付説明 ステップ1・①
		●トレッドが裏返しになっている。	●スパイク面が路面に接する側になる様に、タイヤに装着してください。	取付説明 ステップ1・②
		●タイヤが石等を踏みつけている。	●タイヤの周囲や接地面に、石等がないか確認してください。	
		●フック類が反転している。	●フックCやフックDが反転していないか確認してください。	
	内側フックが接続できない。	●内側フックの挿入位置・向きが間違っている。	●プレートに対する内側フックの挿入位置・向きが正しいか確認してください。	取付説明 ステップ2・④
		●外側フックA・Bが接続されている。	●外側フックＡ・Ｂを外してください。	取付説明 ステップ3・⑥
	外側フックＡが接続できない。	●ロック部が解除されていない。	●外側３ヶ所のロック部を全て解除（アームを広げた状態）してください。	取付説明 ステップ1・①
		●内側フック部（接続後）をタイヤの内側に落とし込んでいない。	●内側フック接続後に、内側フック部をタイヤの内側に十分に落とし込んでください。	取付説明 ステップ2・⑤
		●トレッドがタイヤに引っ掛かっている。	●バイアスロンのトレッドとタイヤとの引っ掛かりを外してください。	

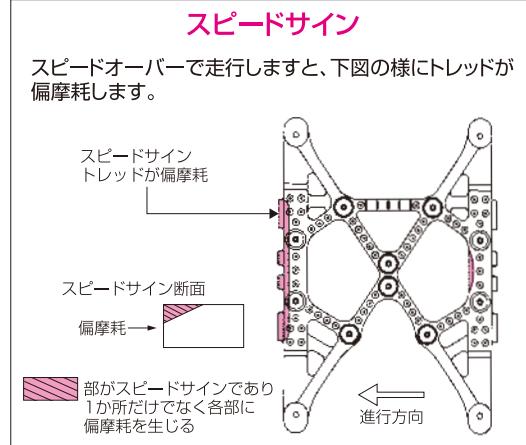
	こんなときは	考えられる原因	ご確認ください	参照ページ
取付	外側フックＢが接続できない。	●トレッドが外側へ引き出されていない。	●トレッド全体を均等にタイヤ外側に強く引き出してください。	取付説明 ステップ3･⑥
		●トレッドがタイヤに引っ掛かっている。	●バイアスロンのトレッドとタイヤとの引っ掛かりを外してください。 （※接続が難しいときは、上側フックＡをホールＡから一度外し、下側フックＢとホールＢを先に接続した後、上側フックＡとホールＡを接続してください。）	
		●装着場所に深めの雪がある。	●上側のフックＡ接続後、タイヤを半回転させ、下側にあったフックＢを上側で接続してください。	
	ロック部のロックができない。	●トレッドが外側へ引き出されていない。	●トレッド全体を均等になる様に、外側へ強く引き出してください。	取付説明 ステップ3･⑥
		●ハンドルがロック部穴に奥まで差し込まれていない。	●ハンドルをロック部穴に奥まで差し込み、ピンが抜けない様に、押しつけながら両手で右に回してください。	取付説明 ステップ3･⑦
		●ロックが順番通りにされていない。	●下側から順番通りにロックしてください。	取付説明 ステップ3･⑦
テスト走行・走行	テスト走行時にバイアスロンが外れた。	●適合品番が間違っている。	●ケースの品番シールを参照し、適合タイヤサイズを確認してください。	
	走行中に異音がする。	●タイヤと車体との間隔が狭い。	●タイヤ周囲にフェンダーまわりで３ｃm以上、タイヤ裏側で２.５cm以上のすき間があることを確認してください。	P6・3
		●内側フックが接続されていない。	●内側フックを内側プレートに確実に接続してください。	取付説明 ステップ2･④
		●外側フックA･Bが接続されていない。	●外側フックＡ・Ｂを確実に接続してください。	取付説明 ステップ3･⑥
		●ロック部が締付け（ロック状態）られていない。	●外側３ヶ所のロック部をハンドルを使い、右に回して確実に締付け（ロック状態）ます。	取付説明 ステップ3･⑦
	バイアスロンの中でタイヤが空転する。	●適合品番が間違っている。	●適合タイヤサイズを確認してください。	
		●タイヤの残り溝が少ない。	●タイヤの残り溝が少ないとバイアスロンとタイヤが空転する場合があります。	
		●駆動力をかけすぎている。	●アクセルをゆるめ、スムーズな走行をすることが大切です。	
取外し	ハンドルをなくしてしまった。		●ロック部は手でも解除できます。 ハンドルはサービスセンターで購入できます。	取外説明 ロック部の解除方法
	ロック部が解除できない。	●ロック部の穴に雪が詰まっている。	●ロック部に詰まっている雪をハンドルで押し出してください。	
	外側フックＡ・Ｂが解除できない。	●ロック部が解除されていない。	●外側３ヶ所のロック部を全て解除（アームを広げた状態）してください。	取外説明 ステップ1･②
	内側フックが解除できない。	●外側フックＡ・Ｂが解除されていない。	●外側フックＡ・Ｂを解除し、トレッドの上半分をタイヤの内側に十分に落とし込んでください。	取外説明 ステップ1･③
		●内側に十分に落とし込まれていない。	●バイアスロンのトレッドの上半分を内側に十分に落とし込んでください。	取外説明 ステップ2･④

1.保　管

1 損傷のチェック

①汚れを洗い流します。
②「バイアスロン」に損傷や切断がないことを確認します。
●トレッド部分が切れていない。
●トレッド部分が損傷を受けていない。
●金属部分が折れ曲がっていない。
少しでも異常と思われる箇所があった場合は、
販売店に補修依頼または再購入をしてください。

スピードサイン

スピードオーバーで走行しますと、下図の様にトレッドが偏摩耗します。

2 保　管

●長期間使用しないときは、直射日光を避け高温（４０℃以上）、多湿にならない場所に保管します。
●夏場の自動車のトランクルームやスチール物置等は特に高温になり、「バイアスロン」の変形の原因となるので避けて保管します。

2.使用限度および補修

1 使用限度

●「バイアスロン」は消耗品です。下記項目の1項目でも当てはまる場合はご使用できません。その際は速やかに新しい「バイアスロン」を購入してください。
①トレッド1箇所でも切断しているとき。
②2個以上のスパイクの脱落があったとき。
③新品購入後５年を経過したとき。
●平坦路を５０ｋｍ／ｈで走行した場合、雪路・非雪路を問わず約１,０００ｋmの耐久性を有しております。

2 補　修

●「バイアスロン」のすべての構成部品は、補修パーツとして用意されています。（補修部品　工賃有料￥2,000～）
補修により使用可能かどうかは自己判断せず、「バイアスロン」を購入された販売店に問い合わせてください。
●付属品を紛失した時は販売店でご注文、もしくは弊社サービスセンターにてお買い求めいただけます。

製品の外観および仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります。なお、誤った取付けや使用、改造しての取付けや使用による事故などの責任は一切負いかねますのでご了承ください。

株式会社 カーメイト
本社　〒171-0051 東京都豊島区長崎 5-33-11
http://www.carmate.co.jp/

お問い合わせ先　商品についての問い合わせは、下記サービスセンターへ。

カーメイトサービスセンター
TEL：03-5926-1212(代表)
FAX：03-5926-1218
パソコンから：http://www.carmate.co.jp/toi/
携帯電話から：http://www.carmate.co.jp/
携帯メールから：mobile@carmate.co.jp

QRコード

※記載されている情報は、2005年3月31日現在のものです。